

NAKANNO LIBRARY

東京工芸大学中野図書館報

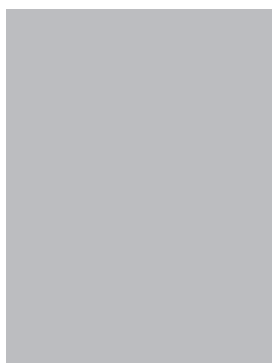
TOKYO POLYTECHNIC UNIVERSITY

23

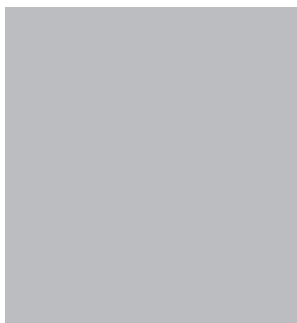




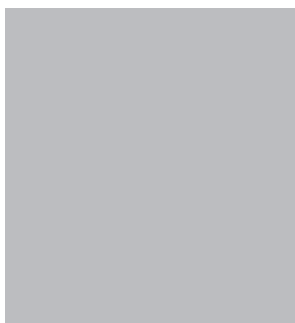
表紙



裏表紙



p. 6 図版



p. 10 図版

『メセム属 超現実主義写真集』 下郷羊雄 私家版（200部） 1940年

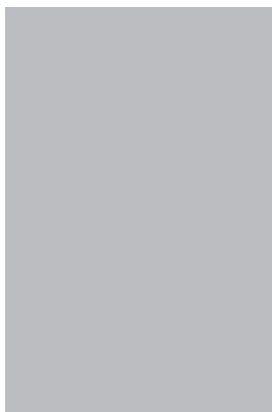
このたび貴重な写真作品集が本学に入りましたので紹介します。下郷羊雄（しもざと・よしお、1907-1980）は名古屋の鳴海の由緒ある家に生まれ、1930年には既に抽象絵画的な作品を制作するなど、時代を先取りした前衛主義的表現活動を展開したことで知られます。その下郷が前衛画家として方向性を模索するなか、「超現実主義（シュルレアリスム）」に影響をうけ、名古屋を拠点とした日本シュルレアリスム運動の一翼を担うに至り、絵画から写真メディアへとアプローチの重心をうつして制作されたのがこの『メセム属』です。戦前期日本の写真芸術の一級資料にして、前衛主義芸術運動の貴重な証言でもあるこの写真集は、写真の専門的教育研究機関として出立して百周年にならんとする本学の図書館収蔵書にふさわしい貴重書と言えましょう。ちなみに「メセム」とは、「女仙」（メセン）とも表記されますように、サボテンの仲間、それも棘がたくさんあるサボテンではなく、柔らかで彩り豊かな多肉植物のことです。女性のように柔らかくつるつるした表面のサボテン（仙人掌）を略して「女仙」です。じつは作者の下郷はサボテンのたいへんな愛好家でもありました。この写真集でもシュルレアリスム的な写真表現の被写体に「女仙」が存分にフィーチャーされています。この機会にシュルレアリスムと写真、あるいは日本とシュルレアリスムの関係などを考えてみるのも興味深いと思います。

中野図書館長 小川 真人

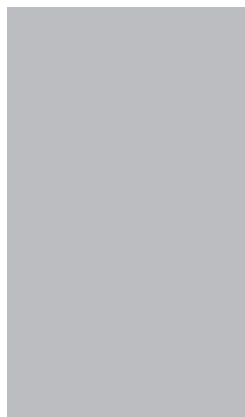
感情史とは何か



表紙



原著表紙



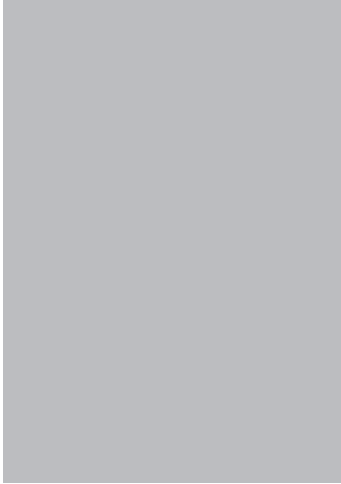
著者近影

『感情史の始まり』 ヤン・ブランパー著 森田直子 ほか訳 みすず書房 2020年

感情は芸術学を中心テーマです。芸術作品の感情表現、また、日常的な感情と美や芸術に関係する美的な感情との違いについてたくさんの研究があります。そもそも感情は人間の心にかかわる主観的なものですが、現代の脳科学や認知科学は感情に新たな光をあてています。しかしそれは、感情を普遍的で客観的なものと想定し科学分析に供することで達成された業績の面もありました。今日そうした感情の扱いには批判も向けられています。一つはジェンダー研究から人間の感情を一方の性だけで普遍化してよいかという論点、また感情を非歴史的に扱ってよいかという論点などです。前者を踏まえつつ後者を追ったのが感情史研究で、近年さまざまな成果がでています。その一つが今回の本です。

ブランパーは1970年ドイツ生まれの歴史学者で今はアイルランドのリムリック大学教授です。ドイツでは、ウーテ・フレーフェルト教授主導のマックスプランク研究所（人間発達研）で感情史研究が展開され、一時期ブランパーもその感情史研究領域に在籍しました。そしてこの本は、感情史学における社会構築的方向（人類学など）と普遍主義的方向（脳科学など）という二大研究動向を比較検討し、両者の対立を止揚するグラントセオリー樹立に向かおうとするものです。その成否はともかく、感情史といいま一番ホットな人文科学領域の理論的見通しを得るには最良の本といえるでしょう。

中野図書館長 小川 真人



『迷宮としての世界：マニエリスム美術』
グスタフ・ルネ・ホッケ 著 種村季弘・
矢川澄子 訳 美術出版社 1987年

今から25年前、『ジョジョの奇妙な冒険』第5部の連載が始まったばかりのとき、そこに描かれた人物の捻じれた立ち姿（後年「ジョジョ立ち」の通称で定着）を見て感じたのが、「これはフィグーラ・セルペンティナータの再来だ」という直感だった。

「フィグーラ・セルペンティナータ（蛇状姿態）」とは美術史のマニエリスムを特徴づける描画スタイルで、例えばミケランジェロの絵画・彫刻に見られるように、引き伸ばされた身体が蛇のような螺旋状に曲がりくねって描かれることからこの名称がある。

「マニエリスム」はルネサンスとバロックの間に出現した様式だが、かつての美術史における位置づけとしては、ルネサンスの均整に満ちた古典的な美が形式化し、模倣と「マンネリズム（どちらも英語では mannerism）」に陥った時期という低いものであった。それ

が再評価の対象となったのは20世紀に入ってからのものであり、本書はその再評価の一翼を担った一冊である。

筆者ホッケによればマニエリスムは単なる技巧主義や奇矯さの表れではない。フィグーラ・セルペンティナータの捻じれたフォルムはルネサンス期の客観的視点から描かれた自然ではなく、現実から離れた「イデア」の産物であり、内的・主観的視点によってデフォルメされた結果なのである。さらにホッケはマニエリスムを美術様式であると同時に、ガリレイやケプラーの新天文学が従来の宇宙観を揺るがし、戦争によって「世界不安」が広がった16世紀の精神の危機の表現として分析する。

だが、本書の面白さはそれだけにとどまらない。マニエリスムの概念はもはや16世紀の美術様式であるだけでなく、広くヨーロッパ芸術史に点在する現象として規定される。その結果、その記述は16世紀から20世紀のシュルレアリスムへとしばしば飛躍し、例えばフィグーラ・セルペンティナータを20世紀のダリのデッサンの中に見出すといった調子である。さながらこの本自体が巨大な迷宮の内部のように蛇行し、錯綜し、スタンダードな美術書とは言い難い反面、刺激に満ちた内容になっていることはまちがいない。決して読みやすい本でないが、世界的な危機のうちにある現代においてこそ、改めて読む価値があるのではないだろうか。

アニメーション学科 准教授 権藤 俊司

国際状況のリアルを伝えるフランス作品の翻訳

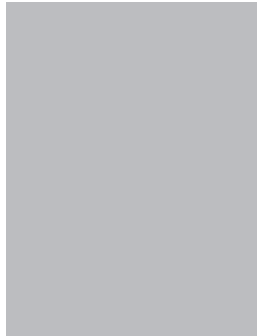
マンガ大国日本ではずっと他の国のマンガに積極的には手を出さず、自前の作品をいかに売ることが優先されてきたが、近年はようやく海外文化や社会状況をマンガで伝える翻訳出版の風潮が増してきたようだ。フランス人による2つの問題作を紹介する。フランス語圏ではバンド・デシネとマンガのことを呼び、略称はBD（ベテ）。

『フォトグラフ』（2014年刊）は小学館集英社プロダクションという合同の版元が、フランスやベルギーの著名作家メビウスやスクイテンの代表作を出し終わった2010年代前半のブームの最後を飾る翻訳だ。この作品は商業的エンタメ要素とは無縁のBDで、ギベールというルポルタージュBD作家が、戦場（アフガニスタン）で活動する報道カメラマンの現地での行動をマンガに描き、一方その撮影した多くの写真で構成されるというあまり類を見ないコラボレーションを実現した。さらに写真の被写体には“国境なき医師団”が含まれ現在進行形の地球上の紛争を臨場感豊かに伝えてくれる。ギベールのこれ以前の仕事として「アランの戦争」という第二次大戦のヨーロツパ戦線の証言をもとにした作品があり、やはりマンガとは縁の薄い出版社から出ている。

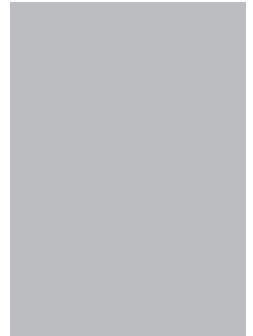
次いでこれまでマンガを出版することのなかった、どちらかといえばお堅いイメージの出版社がBDの中の問題意識の高い作品を、積極的に翻訳し始めた。その最初のケースが明石書店から出た、ダークファンタジーの代表的作家がてんかん患者の兄と家族との遍歴を描いた「大発作」（ダビッド・ペー作）であり、さらに続いたこの「チェルノブイリの春」（2014年刊）だ。タイトルの通り、ルパージュがこれまた危険を顧みずウクライナの原発事故の跡地に取材を敢行し、住み続けなければならなかった現地住民の実情を伝えている作品である。外部から入った作家たちの見る灰色の重苦しいイメージから放射線被害が、あたかも無かったかのように蘇っていく自然の生命力をフルカラーへのグラデーションで描写されるという、画家としての技量がフルに発揮された渾身の力作。彼は福島原発への取材も後に行い同書の中に「フクシマの傷」という短編を描いている。

2020年代に入り、DUブックスや花伝社というマンガ新規参入出版社が、このヨーロツパの最新の社会状況や多民族・多文化・多宗教の軋轢といった問題を伝えてくれている。前者には新進女性BD作家ベネロープ・バジューの諸作品があり、後者は中東問題や風刺マンガ家テロ事件、また新型コロナ医療をテーマにした本などを矢継ぎ早に翻訳出版している。

マンガ学科 教授 細萱 敦



『フォトグラフ』
エマニュエル・ギベール 小学館集英社プロダクション
2014年



『チェルノブイリの春』
エマニュエル・ルパージュ 明石書店 2014年

テクニカルアーティストは 2000 年代後半にゲーム、CG 映像業界で生まれた比較的新しい職種である。業務範囲はアーティストとプログラマ間の橋渡し役、DCC ツールやゲームエンジンのカスタマイズ、ワークフローの提案、新たな表現技術の研究など非常に幅広く、本学の理念にあるテクノロジーとアートの融合を表したような職種といえる。

本書旧版である『テクニカル アーティスト スタートキット』は 2012 年に出版された。丁度、日本のゲーム業界最大の技術交流カンファレンスである CEDEC においても、幾つものセッションでテクニカルアーティストに関する様々なテーマが議論された時期と重なり、『テクニカル アーティスト スタート キット』はテクニカルアーティストに必要な CG 技術の基礎と関連する数学物理、理論を総合的に学習することが出来る内容が高く評価されて CEDEC AWARDS 2012 著述賞を受賞している。

『テクニカルアーティストスタートキット
改訂版』

曾良洋介・Marc Salvati・四倉達夫 著 ボー
ンデジタル社 2021 年

さて、初版から約 10 年後に出版された改訂版であるが、構成は変更せずに旧版の基本的な内容を補足する形で MAYA や Arnold、Bifrost、After Effects といった DCC ツールを使った解説が織り込まれている点が興味深い。例えば、パーティクルの章はコードベースによるパーティクルコントロールから Bifrost を使用した内容に全面置き換えられている。Bifrost はノードベースのビジュアルプログラミング環境で、パーティクルや流体等の表現を作成する事ができる。処理の流れが理解しやすく、結果を直ぐに 3D シーンで確認しながら試行錯誤ができるため、数式やプログラミングに苦手意識を持っているアーティストでも学習するハードルが下がったように思える。

ゲーム、CG 映像の表現は高度化に伴い職種の細分化や専門性が高まる傾向にある。職種間での連携は重要であり、それぞれの分野をクロスオーバーして開発に取り組む必要がある。本書『テクニカル アーティスト スタートキット 改訂版』はそうした環境を実現するための共通言語、知識として、ゲーム、CG 映像業界で高度なグラフィックス表現を目指す学生であれば、職種を問わず手にとってほしい一冊である。数式が出てくる部分もあるが、そこは一旦スルーして、わかりやすい概念図と解説を読むだけでも CG 表現の新しい風景が見えてくるだろう。

ゲーム学科 教授 金久保 哲也

『だれでもデザイン』 山中俊治 朝日出版社 2021年

山本 康文



この本のタイトルを見て「だれでもデザインなんて無理だよ、センスと適性のある人が（東京工芸大学デザイン学科などで）うんと勉強して、はじめてできるものでしょ」と思っていた方がいるかもしれません。実際、私もそう思いました。

しかし、筆者の山中さんは「デザインは才能とは無関係に身に付けられる考え方で、センスを学ぶことも可能」と言っています。山中さん自身も、正規のデザイン教育を一度も受けることなくデザイナーになりました。（大学での専攻は機械工学で、漫画サークルに入り、コミケにも出展し一時期は本気で漫画家を目指していたそうです）

この本には、2017年に筆者が高校生に向けて行った4日間の特別授業をもとにして、デザインの考え方や言葉を習得するやり方が書かれています。高校生たちは、スケッチを描いたり、既存の製品を分解したり、皆でディスカッションしながら、

やがてアイデアが生まれる瞬間に立ち会います。

人間が何かを生み出すときの普遍的な方法が含まれている一冊だと思います。デザインだけでなく、創造的な仕事に関わる全ての人に一読を勧めます。

『猫の建築家』 森博嗣 著 佐久間真人 画 光文社 2002年

和田 謙介



“猫本とか食傷気味！” 今や「猫の○○」が世の中にありすぎて、そう考えてしまうのも無理はない……でしょうか？でも、そんな今だからこそおすすめしたいのが、この『猫の建築家』です。

著者は『すべてがFになる』シリーズや『スカイ・クロラ』等で有名な森博嗣氏。ただ本書では、それら作品から期待されるようなエンタメ性は完全に排除されていて、だいふ戸惑うかもしれません。

というのも、本書の内容は猫の目と意識を通して「美」についての考察が淡々と述べられるかなり哲学的なもの。そこに佐久間真人氏の精緻で優しいイラストも合わさって、音もなく砂が積もっていくような儼かな雰囲気漂う作品となっています。

そんな内容の説明も読者への媚びもない姿勢は、

ある意味で昨今の猫本とは完全に真逆。けれど「猫って本来、そういう存在だったかも」とも思うことができるのは、この今の猫本ブームと比較してこそ、かもしれません。

時に孤独に時に気ままに、この本に登場する猫のように「美」や「形」についてじっくり思いを寄せてみるのも、悪くないのではないのでしょうか。猫本が世にあふれる今だからこそ、読んでほしい一冊です。

今後の展示予定

●2022 年度図書館報展



開館日時

通常期

月～金／9:00～20:00 土／9:00～17:00 日・祝祭日／休館日

夏季・冬季・春季休暇

月～金／9:00～17:00 土・日・祝祭日・一斉休暇／休館日

- 中野区在住・在勤の方は、カウンターにて手続き(身分証確認など)のうえ、図書・雑誌の閲覧と、著作権法に定められた範囲で複写ができます。
- ご来館の際は、ホームページなどで開館日時を事前にご確認ください。



2022年11月発行

東京メトロ丸ノ内線、都営地下鉄大江戸線、「中野坂上」駅下車、1番出口から徒歩7分

KOUGEI 100th Anniversary Since 1923

表紙イラストレーション：藤本巧 (ふじもと たくみ)

1997年生まれ。イラストレーター。2020年東京工芸大学芸術学部デザイン学科卒業。顔彩を用いた色鮮やかな表現で、雑誌の挿絵やイベントビジュアルなどを手がける。個展、グループ展多数参加。

作品タイトル「心躍る一冊」

作品コメント：日常を少しだけ明るく照らしてくれるような、ワクワクする本との出会いを描きました。

東京工芸大学 | 中野図書館

164-8678 東京都中野区本町2-9-5

tel 03-5371-2733

<https://www.t-kougei.ac.jp/library/>